Honda の交通安全情報紙　SJ 2020 年 6・7 月号（No.502）6 月 19 日発行

06-07 2020 JUN.JUL.

新型コロナウイルス感染症により、お亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げます。
また、罹患された方々とそのご家族の皆様には心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い回復をお祈り申し上げます。

SJ

The Safety Japan
since 1971

Close Up　クローズアップ 教育手法

コロナ禍で模索が続く、交通安全教育の新たな手法

新型コロナウイルスの影響による学校の休校で、今春は子どもたちが交通安全教育を受ける機会が例年に比べ減った。地域の交通安全指導者たちは、この状況を少しでも改善するため、新たな教育手法を模索している。今回は、外出できない子どもたちに交通安全教育を届けようと工夫している地域の取り組みを紹介する。

「オンライン交通安全教室 in Zoom」では「あやとりぃ」のワークシート（写真上）をパソコンなどの画面上で共有して進められた

事例①　自動車安全運転教育推進協会（愛知県）

幼児とその保護者向けに オンライン交通安全教室を実現

自動車安全運転教育推進協会は幼児とその保護者向けに「オンライン交通安全教室 in Zoom」を開催している。Zoom とはパソコンやスマートフォンなどを介して会議やセミナーに参加できるアプリ。これを利用することによって、同協会はオンラインでの交通安全教室を実現させたのである。

同協会は愛知県や岐阜県の企業を中心に出張での安全教育を行う団体。代表理事を務める長谷川教子さんは元警察官で、様々な対象に安全教育を実践してきたキャリアを持っている。4 月以降、長谷川さんの周囲にいる子どもの保護者から「毎年 4 ～ 6 月に幼稚園や小学校で実施されている交通安全教室がなくなってしまったが、どうすればいいのか」という相談が寄せられるようになった。

「学校の先生方に聞いてみると、『交通安全教室を 4 ～ 6 月にやるのは難しい』という反応でした。PTA の役員をはじめ保護者の方々も諦めていたので、何か役に立つことができないかと考えました。警察官だった時、Honda の交通安全教育プログラムを使って指導していたので、それをオンラインで実現しようと思ったわけです。パソコンかスマートフォンがあれば、自宅にいながら子どもと保護者が一緒に参加することができます。単に交通ルールを学ぶだけでなく、将来、危険を回避する能力を子どもに身につけてもらうための第一歩として保護者の皆さんに活用してほしいと思います」。

開始時刻が近づくと、Zoom を通して参加者（親子）が入室してくる。Zoom では参加者の顔の映像と一緒に名前が表示されるので、これを子どもの名前にしてもらう。オンラインではリアルな交通安全教室と比べると、参加者の反応がわかりにくい。一人ひとり名前を呼ぶことで、子どもの意識を引きつけようというねらいがある。

今回は Honda の幼児向け交通安全教育プログラム「あやとりぃ ひよこ（以下、あやとりぃ）」と「できるニャンと交通安全を学ぶ」を取り入れ実施した。「Honda のプログラムは必ず覚えてほしいポイントが絞り込まれているので、道路を歩く時に最低限守るべきことを子どもたちに理解してもらいやすいと感じています。保護者の方もこれを体験すれば、何をどのように子どもたちに伝えれば良いのか、わかるのではないでしょうか」と長谷川さんは説明する。

まず参加者が視聴する画面に「あやとりぃ」のワークシート（写真参照）が映し出される。長谷川さんは男の子や女の子のキャラクターを画面の中で動かしながら、どこを歩くべきか、歩行者用信号機が「赤」「青」「青点滅」の時はどのように行動すべきか、子どもたちに質問。「わかった人は手を振ってください」と呼びかけ、画面越しに手を振った子どもを指名して答えてもらう。

Contents

P1-3　Close Up クローズアップ　教育手法
P4　Close Up クローズアップ 交通事故
P5　TRAFFIC SCOPE 交通参加者の行動を観察する
P6　危険予測トレーニング（KYT）
SJ クイズ

Safety for Everyone

Honda はすべての人の
交通安全を願い活動しています。

SJ ホームページは　ホンダ　SJ　検索

編集室：本田技研工業株式会社 安全運転普及本部内
〒 107-8556 東京都港区南青山 2-1-1
TEL：03(5412)1736
https://www.honda.co.jp/safetyinfo/
編集人：鈴木英樹

※ご不明な点がございましたら、下記までお問合わせください。
㈱アストクリエイティブ安全運転普及本部係
TEL：03(5439)1191
E-mail：sj-mail@spirit.honda.co.jp

次に「できるニャンと交通安全を学ぶ」。アニメーションを見ながら、信号機のない横断歩道を渡る時の危険を子どもたちに考えてもらい、答えてもらった上で、どのように行動すれば安全かを解説した。
最後に長谷川さんが「子どもは知識として知っていても、行動に移せないことがたくさんあります。大人からみたら当たり前のことであっても、日々の繰り返しの中で少しずつ身についていくものです。保護者の皆さんが声をかけながら身体でしっかり覚えさせるようにしてください」と呼びかけ、交通安全教室は終了した。
「Zoom を利用したことがある保護者の方は気軽に参加してもらえますが、使ったことがない方にとっては参加へのハードルが高いようです。そうした方には、Zoom を使えるようにサポートすることも必要になってきます。その一方で、オンラインであれば、教室を開催する場所に縛られないので、全国展開できる可能性があると感じています」。
学校の休校が長期化したことによって、教育現場では行事の見直しが図られている。その中で、交通安全教室の中止や開催回数が減ることを長谷川さんは危惧する。「私たちも、交通安全教育の重要性を先生方や保護者の皆さんに再認識してもらうための努力を行っていこうと考えています」。

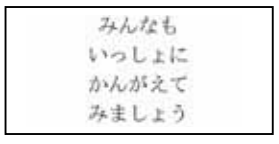
「できるニャンと交通安全を学ぶ」ではアニメーションを画面上で共有。途中で映像を止め、信号機のない横断歩道を渡る時の危険を子どもたちに考えてもらい、答えてもらった後に解説する

Zoom を使って交通安全指導をする自動車安全運転教育推進協会
代表理事 長谷川教子さん

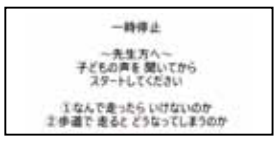
事例②　横浜市（神奈川県）

幼児向け「交通安全指導動画」を制作し 市の YouTube チャンネルで公開

横浜市は 5 月 21 日に幼児向け「交通安全指導動画」を同市の YouTube チャンネルで公開した。
動画を制作したのは横浜市道路局交通安全・自転車政策課。同課担当課長 前川純司さんは「本市では幼児交通安全指導員が市内の幼稚園・保育園で訪問指導を行っていますが、新型コロナウイルスの影響で、それができない状況になりました。そこで、子どもが基本的な交通ルールを理解し、安全に歩行できるようになるための指導内容を動画で公開し、幼稚園・保育園の先生方、保護者の皆様に活用していただこうと考えました」と話す。
動画は指導員 3 名が制作したもの。指導員の一人、岡田和美さんはこれまでやってきた交通安全教室とは違う内容にしたいと思い、Honda の「あやとりぃ」を取り入れることにしたという。
「今年度は『あやとりぃ』を訪問指導の中で使おうと、Honda から教材や指導ノウハウの提供を受けたところでした。ワークシートに描かれている交通場面のイラストはシンプルでわかりやすく、子ども目線での指導ができるため、今回の動画には最適だと思ったのです。本市の交通安全キャラクターとコラボレーションしたオリジナルのシナリオを考えました。新型コロナウイルスの影響で、指導員全員が集まる機会が少なく、限られた時間で練習し、動画の撮影と編集を行いました」。
第 1 弾の動画は車道と歩道がある道路、路側帯のある道路、路側帯のない道路、それぞれの「正しい歩き方」について、指導員が扮する魔女の「まじょりーな」と横浜市の交通安全キャラクターの「ルールちゃん」との掛け合いで伝えていくというストーリーになっている。
「まじょりーな」は「あやとりぃ」のワークシートを見せながら、その中のどこを歩くべきかを「ルールちゃん」に問いかける。ここで映像が一旦止まり、「みんなもいっしょに考えてみましょう」というテロップに切り替わる。ここで先生や保護者は動画を一時停止して、子どもに考えさせる時間をとった上で、再び映像をスタートする。すると、「まじょりーな」が呪文を唱え、男の子と女の子が正しく歩いている様子へと変わる。
「子ども自身に答えを考えさせることで、『自分から気をつけよう』と自発的に行動できるようになるきっかけづくりのため、何回か考える時間を設け、一時停止をして子どもの考えを聞きながら進めていけるように工夫しました」と岡田さんは説明する。
横浜市では、毎年、約 600 園から申し込みがあるが、指導員 3 名で市内全域を担当しているため、1 つの園で交通安全教室を実施できるのは数年に 1 回。そうした事情もあり、新型コロナウイルスが収束しても、活用してもらうことを視野に入れ、幼稚園・保育園の園長会で動画を PR するなど活用を促している。
担当課長の前川さんは「今回のような事態をふまえ、非接触型の教育手法も充実させていく必要があると感じています。通常の交通安全教室では指導員が対面で子どもたちの関心や理解度を判断しながら進められますが、動画ではそれができません。そうした点を考慮しながら、子どもたちを引きつけ、理解しやすいものを検討していきたいと考えています」という。
6 月 3 日には幼児向け「交通安全指導動画」の第 2 弾を公開。第 1 弾と同じく「まじょりーな」と「ルールちゃん」との掛け合いで、「信号のお約束」「横断歩道の渡り方」などを紹介。横断歩道を渡る時は信号機の有無にかかわらず、まず車道から一歩離れた場所で止まることを強調している。



子どもに考えてほしい場面で映し出されるテロップ



先生方から子どもたちに問いかけてほしいポイントも映し出される

「まじょりーな」が呪文を唱えると、歩道で男の子と女の子が遊んでいるシーン（左）が正しく歩いている様子（右）へと変わる

6 月 3 日に公開された第 2 弾の動画では、道路の安全な横断について学べるようになっているほか、「あやとりぃ」の音当てクイズも収録されている

識者に聞く：（一財）日本自動車研究所 安全研究部 予防安全グループ 主任研究員 大谷亮さん

子どもが事故に遭いやすい時期や時間が例年と変わってくることに注意を

新型コロナウイルスの影響で、子どもに対して例年通りの交通安全教育ができていない地域は多いはずだ。子どもへの交通安全教育に関して研究している大谷さんは、例年 4 ～ 5 月に実施していた交通安全教育を多くの学校が授業を再開した後にしっかりやっておくことが大切だと強調する。
「外出自粛要請のため、子どもたちは長い間、家に閉じこもっていることが多かったと思います。自由に外に出られるという解放感や、学校生活が始まることへの期待と不安に起因する不安全行動が事故に結びつかないように、保護者をはじめ周囲の大人が登下校時の見守りや立哨活動などで指導してあげてください。特に、新 1 年生にはこれまで通り校庭や実際の道路で適切な歩き方を訓練する場を設ける必要があります」。
また、子どもたちが例年のような交通安全教室を受けられないことも考えられることから、家庭における教育も充実させてほしいという。家庭でも手軽に交通安全教育を実践してもらうため、大谷さんが部会長を務める日本交通心理学会学校・家庭部会では、玩具を用いた安全教育の方法を 6 月 9 日に同学会のホームページ (https://www.jatp-web.jp/) に公開した。空き箱でつくったクルマや玩具のクルマを利用した遊びの中で、子どもに飛び出しの危険性を理解してもらえる内容になっている。
ドライバー・ライダーにも、これまで以上に子どもの飛び出しには注意する必要があると大谷さんは警鐘を鳴らす。「小学 1 年生の交通事故は入学直後の 5 月から増加する傾向にあります。しかし、今年は時差通学、夏休みの短縮などによって登下校する時期や時間が例年とは異なるため、1 年生が事故に遭いやすい月や時間帯が変わってくることが予想されます。ドライバー・ライダーの皆さんは、普段は家庭や学校にいる時期や時間帯でも、子どもが飛び出す可能性を予測しておくことが重要といえるでしょう」。

事例③　交通安全岩国市対策協議会（山口県）

SNS を活用して
交通安全情報を発信

SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を活用して交通安全に関する情報を発信しているのは交通安全岩国市対策協議会。4 月から SNS（Facebook と Instagram）による啓発活動を始めた。同協議会交通指導員 髙本雅恵さんは「幼児の保護者に家庭でも交通安全教育を行ってもらえるように、これまでホームページでの情報発信や『交通安全だより』を発行していました。しかし、ホームページは興味のある人しか見ない、紙媒体は一目見て捨ててしまうという人が多いようで、ねらったほどの効果が出にくいように感じていました。そこで、もっと手軽な SNS に目をつけたというわけです」と話す。
SNS は幼児の保護者に当たる世代はもちろん、幅広い世代が利用している。一度「いいね」ボタンを押してしまえば、自分のタイムラインに投稿が自動的に流れてくるという仕組みに着目したのである。写真や動画が投稿でき、文字だけでは伝わらないことも一目見てわかるので利用する価値が高いと髙本さんはいう。
まず公開したのは「ちゃんと乗ってる？チャイルドシート」という動画。幼児向け交通安全教室で使用している手づくり教材を使って動画を撮影したものだ。チャイルドシートを使用せずに子どもをクルマに乗せている時、事故が起こったら、どんな危険があるのかを示す内容となっている。最初に、チャイルドシートを使用していない状態で Honda の交通安全キャラクター「できるニャン」のぬいぐるみを模型のクルマに乗せ、もう 1 台のクルマと衝突させる。すると、「できるニャン」は勢いよく車外に投げ出されてしまう。次に、チャイルドシートを使用した状態で同じことを繰り返す。今度は、ベルトで身体が固定されているため、座ったままの状態を維持している。
実際の交通安全教室では「できるニャン」が投げ出される衝突シーンは一瞬で終わってしまうが、今回の動画ではスローモーションでの映像が付け加えられている。「できるニャンのぬいぐるみはダミー人形ほどリアルではないので子どもにも見てもらいやすいと思います。シートベルトを固定する際の『カチッ』という音はあえて実際より大きく聞こえるようにしました。『車に乗ったらシートベルト』ということをこの音で意識づけさせたいというねらいがあります」。
岩国市では休校となっていた小・中学校で 5 月 7 日から授業が再開された。その翌日に、通常の交通安全教室で活躍する腹話術人形の「まぁくん」が「クルマや自転車を運転する時、道路を歩く時は気をつけてね。おうちに帰ったら、手洗いとうがいをしてね。お外に出る時はマスクも忘れないでね」と呼びかける動画を公開した。同市内には米軍基地があり、外国人も多いため、英語の字幕をつけたという。
「今後の交通安全教室は参加人数を減らし、時間を短縮するなど安全性を最優先に考えた運営をしていく必要があります。幼稚園・保育園では年間 3 回行っていますが、その回数を減らしてほしいと要請される可能性も高いでしょう。今までと同じような指導ができない分、DVD や YouTube、SNS を活用して、幼稚園や保育園、家庭でフォローできるような環境を整備していこうと考えています」。

ベルトをしていない「できるニャン」は、衝突によって前方に勢いよく投げ出されてしまう

ベルトで固定して衝突させると、「できるニャン」はシートに座ったままの状態を保っている

事例④　（一財）静岡県交通安全協会 細江地区支部

自転車の交通ルールなどが学べる動画を
制作し、ホームページに公開

（一財）静岡県交通安全協会 細江地区支部はホームページに自転車の交通ルールについて学ぶことができる動画や資料を公開している。
同支部交通安全指導員 鈴木利枝さんは「新型コロナウイルス感染拡大の影響で 4 月から 5 月にかけて小学校が臨時休校となり、毎年春先に開催していた交通安全教室はできない状況となりました。交通安全教育の機会が減ってしまうことにより、小学生が巻き込まれる事故が増える恐れがあります。代わりにできることを指導員 4 名で考えた結果、動画を制作することにしたのです」と振り返る。
今回の動画で扱うテーマは自転車に絞り込んだ。その理由は 2 つあると鈴木さんは説明する。
1 つ目は、昨年 12 月に浜松市内で自転車に乗った小学生が見通しの悪い交差点でクルマと衝突して死亡した事故が発生したこと。「以前から、保護者の方には自転車を子どもに買い与えたら、それで終わりではなく、自転車の交通ルール、点検や安全確認の方法まで子どもにきちんと教えてほしいと思っていました。しかし、大人でも自転車の交通ルールを正確に教えられる人は少ないと思います。子どもと保護者が一緒に勉強できるような動画にしようと考えたわけです」。
2 つ目は、管轄する細江地区の小学校が静岡県の中でも子どもへの自転車教育に対して熱心に取り組んでいること。毎年、東京ビッグサイトで開催される「交通安全子供自転車全国大会※」（主催：（一財）全日本交通安全協会、警察庁）で、地区内にある小学校が 2013 年、2016 年、2018 年に優勝を果たしているのだ。「私たちも静岡県大会や全国大会に向けて各小学校の練習をサポートしています。残念ながら、今年は新型コロナウイルスの影響で全国大会はもちろん県大会も中止になりました。大会に向けた練習も自転車教育を行う貴重な機会だったので、子どもたちに動画で、知識の部分を補ってもらおうと思いました」。
動画は「自転車の交通ルール（小学生向け）」「自転車点検」「交差点の通り方・曲がり方」の 3 つ。「自転車の交通ルール」では Honda が提供した「あやとりぃ」の交通場面やクルマなどのイラストの実物を画像データに変換して動画の中に取り込んだ。これらのイラストを活用して、自転車が通行すべき場所をわかりやく示す内容となっている。
「地区内の小・中学校に動画を公開したことを案内すると、各学校から保護者へ視聴を呼びかけてもらうことができました。これまでやっていたような交通安全教室はしばらくできません。学年や班ごとに場所を分けたり、時間差で実施するなど、密にならない工夫をしながら、これからも現場で直接、子どもたちに寄り添った安全教育をしていきたいと思います」と鈴木さんは力強く語った。

※全国の小学生に自転車の安全な乗り方に関する知識と技能を身につけてもらうとともに、交通安全の意識を高め交通事故を防止することを目的として 1966 年から毎年開催されている。全国大会に先立って開催される各都道府県大会で選抜された 47 チームが学科と実技（安全走行テスト、技能走行テスト）で競う。

「自転車の交通ルール」では「あやとりぃ」の交通場面やクルマなどのイラストを活用

「交差点の通り方・曲がり方」は「止まれ」の標識がある交差点での一時停止や安全確認などについて指導員が模範を示す映像を収録

「自転車点検」ではブレーキやタイヤなど 6 つの点検項目について、指導員が手順を実演

（一財）静岡県交通安全協会 細江地区支部の動画は交通安全指導員 4 名（写真右が鈴木利枝さん）が力を合わせて制作した

今回紹介した動画は以下のホームページからご覧いただけます。

横浜市 道路局 交通安全・自転車政策課
https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kotsu/anzen/kotsuanzen/youjidouga.html

交通安全岩国市対策協議会
https://www.facebook.com/koutaikyo.iwakuni/
https://www.instagram.com/koutaikyo/

（一財）静岡県交通安全協会 細江地区支部「学習支援サイト交通安全」
http://shizuankyou.jp/publics/index/162/

Close Up クローズアップ 交通事故

コロナ禍は交通事故情勢に どのような影響を与えているか？

4月7日に政府が発出した緊急事態宣言の影響で、首都圏など都市部を中心に4～5月はかつてないほど人の動きや街の風景が一変した。これによって交通事故情勢にどのような変化がみられたか、警察庁と警視庁、神奈川県警察本部に聞いた。

4月単月の交通事故死者数は前年に比べ約20%減少

全国の1～4月の交通事故発生件数は10万4012件と前年同期比（以下、前年比）で18.5%減少し、死者数も961人と前年比4.1%減となっている。

状態別死者数をみると、二輪車乗車中は158人（前年比＋15人）と増加しており、自動車乗車中は315人（前年比－6人）、自転車乗用中は130人（前年比－25人）、歩行中は355人（前年比－23人）と減少した。二輪車乗車中の死者数は、1～3月の累計では118人と前年から30人増加していたが、4月単月は40人と前年から15人減少している。

また、事故類型別死亡事故件数をみると、人対車両の横断中における死亡事故では、横断歩道横断中が94件（前年比＋23件）と増加しており、横断歩道以外横断中は136件（前年比－34件）と減少している。

「4月中（単月）の人身事故総数は2万839件と前年比約35%の減少、死者数は213人と前年比約20 %の減少となっています。交通事故の減少は交通量の減少を一定程度反映したものとみられますが、4月中においても、交通事故死者数が前年より増加している都道府県もあり、引き続き、適切な交通指導、取締りを推進するなど、交通事故防止に努めてまいりたい」と警察庁はいう。

緊急事態宣言は5月25日に最後まで宣言の対象だった東京都など5都道県でも解除され、日常の風景が戻り始めている。警察庁は「経済活動の再開に伴い、交通情勢も変化することが予想されるため、周囲の車両や歩行者等の動静に十分気をつけていただきたい」と注意喚起をする。

東京都は4月単月の死亡事故が前年より増加

警視庁によれば、東京都内の1～4月の交通事故発生件数は8219件と前年比で2494件（23.3%）減少した。このうち1311件は4月単月の減少である。東京都からの外出自粛要請や緊急事態宣言の発出により交通量が大きく減少したことが要因ではないかと警視庁はいう。子どもの交通事故についても、登下校時間帯における発生件数が減少し、通常であれば在校していた日中の時間帯に発生が増加していることから感染防止対策の休校措置による影響があったものと考えられる。

発生件数が著しく減少している一方で、4月単月の死亡事故（死者数14人・前年比＋2人）は増加した。1～4月の死者数は48人で、状態別にみると、歩行者が26人（前年比＋10人）と全体の54.2%を占め、このうち15人が高齢者（65歳以上）だった。事故類型別では横断歩道横断中が13人（前年比＋8人）。歩行者に法令違反（信号無視等）があったのは17人（前年比＋7人）だった。交通閑散が車両速度の上昇や注意力散漫、自転車や歩行者の法令違反等に影響を及ぼしていることも考えられると警視庁はみている。

交通事故低減に向けて、警視庁では特に「歩行者の交通事故防止対策」と「子どもの交通事故防止対策」に力を入れている。

歩行者の交通事故防止対策として、これまでの歩行者保護の取り組みに併せて、歩行者が道路を横断する時に事故に遭わないための簡単で効果的な安全行動に「横断 SAFETY ACTION」という統一名称を設定して、都民に浸透・定着するように取り組んでいる。「横断 SAFETY ACTION」は「信号を守る」「横断歩道を渡る」「確実な安全確認を行う」という基本ルールを守った上で、

〇顔を車両の方向に向ける
〇手を出して又は挙げて車両に合図する
〇安全な場所で足を一歩踏み出す

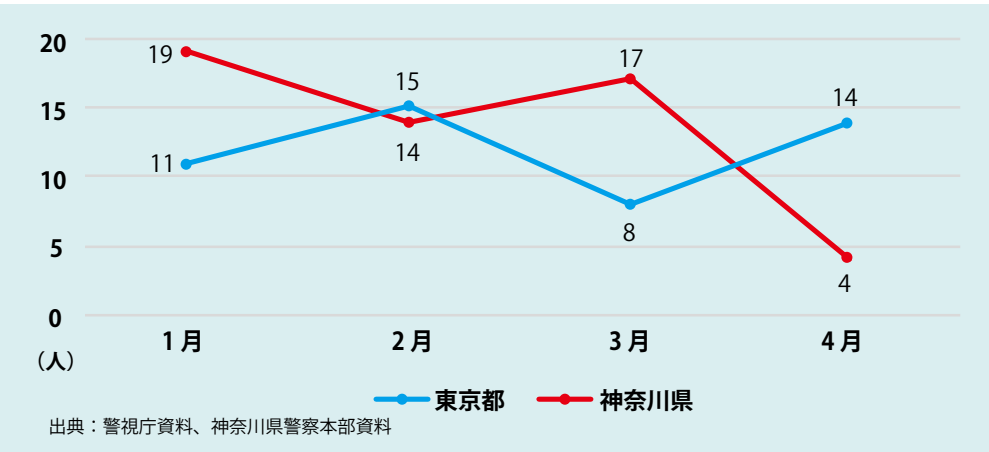
といった横断する意思を明確に示す行動をとることにより、交通事故を防ごうとするものだ。

「皆様にも、ご自身の簡単な行動で防げる交通事故がありますので、実行していただくようお願いします」と警視庁はいう。

東京都内では今年に入り、子どもが犠牲となる死亡事故が4件発生。そのうちの3件は休校措置がとられた3月以降に起きている。そのため、子どもの交通事故防止対策として、緊急事態宣言による学校の休校措置などが続き、子どもを取り巻く交通環境がこれまでに経験したことのないものとなっていることを受けて、東京都の関係機関等に対して、保護者向けに一斉に注意喚起メールの送信を依頼した。

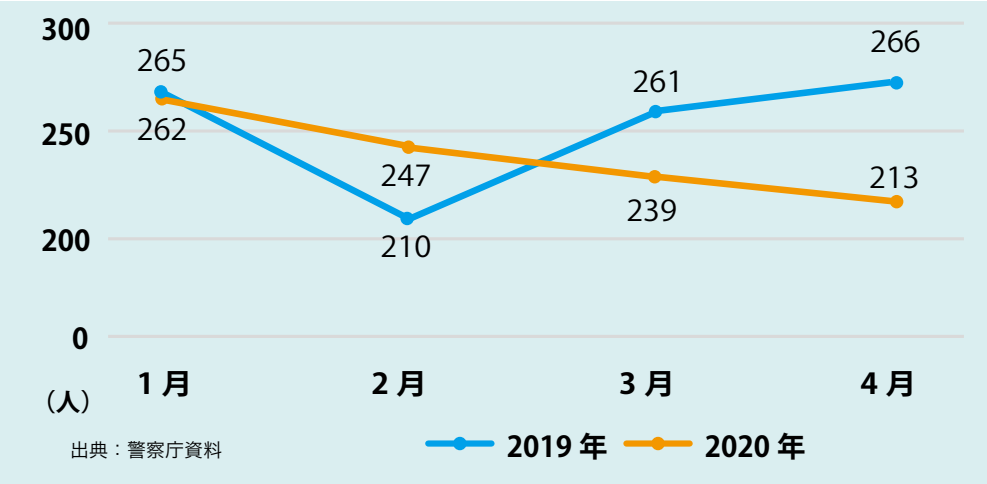
「大人が手本を示して指導するとともに、交差点などの危険な場所では保護者と手をつなぐなど、子どもを交通事故から守るための安全行動をお願いします。また、クルマを運転する際には、平日の日中でも子どもが通行していることがありますので、スピードを控えて、いつも以上に慎重に運転していただくようお願いします」と警視庁は呼びかけている。

●東京都と神奈川県の月別交通事故死者数（2020年1～4月）



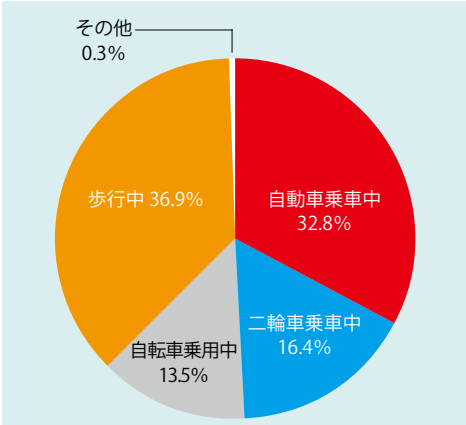
出典：警視庁資料、神奈川県警察本部資料

●2019年と2020年の月別交通事故死者数（1～4月）



出典：警察庁資料

●状態別交通事故死者数の構成率（2020年1～4月）



出典：警察庁資料

神奈川県は4月単月の死者数が月間としては過去最低タイを記録

神奈川県も緊急事態宣言が発出された4月に交通事故件数が減少している。神奈川県警察本部（以下、神奈川県警）によれば、4月単月の死者数は4人と月間としては過去最低タイとなった。特に4月10日から27日にかけて18日間死者数ゼロで、こちらも最長タイを記録した。

それでも1～4月の死者数は54人と前年比で31.7%増加している。状態別にみると、歩行者が24人（前年比±0人）と最も多く、このうち18人は高齢者だ。高齢者の場合、発生した時間帯は5～7時と16～18時に集中している。

次に多いのが二輪車で20人（前年比＋10人）。月別にみると、4月は2人と前年を4人下回ったものの、1月は3人（＋2人）、2月は7人（＋6人）、3月は8人（＋6人）といずれも前年を大幅に上回っている。「これは暖冬により、二輪車の利用が増えた影響ではないかと考えています」と神奈川県警は説明する。二輪車の死亡事故の事故類型は右直（35.0%）と単独（30.0%）が多く、勤務中･通勤中（60.0%）に事故を起こしている。年齢層別では20歳未満と20歳代が11人となっている。

神奈川県警は「二輪車の事故を防止するため、例年は若者から中高年までのライダーを対象に安全運転講習会を開催していましたが、今年は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で実施が困難な状況です。そこで、新たな取り組みを始めています」と話し、5月1日、第一交通機動隊（横浜市南区）の敷地を活用し、引き込み型交通安全体験教室を実施した。隊前の国道16号を走行しているバイクを呼び止め、受講を希望するライダーには白バイ隊員が飛び出し事故を想定した回避制動や死角体験をしてもらうなど安全運転指導を行った。

●交通事故死者数が前年から増加した都道府県（2020年1～4月）

	死者数（人）	増加数（人）	増加率（%）
北海道	34	4	13.3
岩手県	20	7	53.8
秋田県	17	7	70.0
東京都	48	7	17.1
神奈川県	54	13	31.7
静岡県	41	4	10.8
石川県	18	11	157.1
愛知県	55	12	27.9
三重県	30	11	57.9
京都府	24	4	20.0
大阪府	47	5	11.9
香川県	23	10	76.9
愛媛県	12	2	20.0
高知県	10	1	11.1
佐賀県	14	4	40.0
長崎県	14	4	40.0
大分県	17	2	13.3
宮崎県	14	2	16.7
鹿児島県	19	3	18.8
沖縄県	7	2	40.0

出典：警察庁資料

高齢者に対しても、これまでのような集合教育ができないことから、「街角アドバイス」として、散歩などで歩いている高齢者に「守っていますか？歩行者の交通ルール」という簡易型の啓発チラシを渡して直接、正しい横断の方法を啓発している。このチラシには歩行者に守ってほしい次の7つのルールと違反した場合の罰則が記載されている。

□赤信号で渡らない
□横断歩道を渡る
□横断禁止場所を横断しない
□車両の直前や直後を横断しない
□斜め横断をしない
□遮断踏切に入らない
□歩道等のある道路では車道を歩かない

また、SNSによる啓発活動にも力を入れている。Twitterを通じ、交通事故防止に役立つ情報などを日々発信。二輪車や自転車の安全な乗り方を指導する動画を公開したり、クイズを出題するなど、気軽に交通安全情報にアクセスできるようになっている。同県で緊急事態宣言が解除された翌日には「危険を予測した運転や正しい横断方法を行っていただくなど細心の注意をお願いいたします。思いやりとゆとりある行動をお願いします」とタイムリーに呼びかけた。

神奈川県警察本部交通部交通総務課のTwitter公式アカウント（@kpp_koutuu）では様々な交通安全情報を発信している

TRAFFIC SCOPE

「TRAFFIC SCOPE」は交通参加者の行動観察を通じて、ドライバーやライダー、自転車利用者、歩行者に守るべきルールがあることを再認識してもらうための連載記事です。

交通参加者の行動を観察する　特別編

緊急事態宣言が解除された東京都内でクルマ、バイク、自転車、歩行者を観察

今回の「TRAFFIC SCOPE」では緊急事態宣言が解除され、日常を取り戻しつつある東京都内でクルマ、バイク、自転車、歩行者の様子を観察した。観察は警視庁の交通事故発生マップ（https://www2.wagmap.jp/jikomap/）から確認し、今年に入って交通死亡事故が発生した場所で実施。

観察場所①

豊島区千早１丁目

左側からの追い越し／追い抜きは危険！

ここでは路肩（車道外側線の外側）を走行するバイクと左折しようとする軽乗用車の衝突事故が発生し、50 代のライダーが死亡した。事故現場は、山手通り「要町一丁目」交差点から 100m ほど離れた路地の入口。観察を行った時間帯は事故が発生した 18 時台。仕事からの帰宅途中と思われるバイクが多かった。路肩を通行したバイクは約 1 割。前方を走るクルマを追い越し／追い抜きのために路肩を通行しているようで、車道 (車道外側線の内側) を通行するバイクと比較して速度が高いと感じられた。観察中、3 台のクルマがこの路地を左折していたが、30m 以上手前でウインカーを点滅させていたクルマは 1 台だった。前方のクルマが突然、路地に左折する場合もあり、左側からの追い越し／追い抜きはたいへん危険だ。ライダーは厳に慎むべきである。一方、ドライバーも左折時、早めに合図を出し、左後方にバイクや自転車がいないか目視で確認しなければならない。

観察日時／６月２日（火）18：00～19：00
天候／晴れ

●二輪車の通行場所（台）

車道（車道外側線の内側）	路肩（車道外側線の外側）	合計
82 （87.2％）	12 （12.8％）	94

車道の左側端（車道外側線の内側）を通行するバイク

路肩を通行する二輪車

台数は少なかったが、路地に左折するクルマも見られた

駐車車両を避けるために路肩から出てくる自転車

観察場所②

練馬区錦２丁目

クルマの動きを意識していない自転車が多い

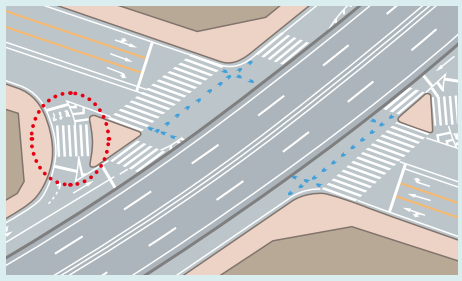
ここでは車道を逆走（右側通行）してきた自転車と左折する大型貨物車との衝突事故が発生し、80 代の自転車利用者が死亡した。事故現場となった「練馬北町陸橋」交差点は環状八号線から国道 254 号への合流場所。クルマ・バイクは合流の際、一時停止して安全確認をしなければならない（写真参照）。観察中、クルマ・バイクのほとんどは停止線の手前で一時停止していたが、右後方からクルマが来ない場合は一時停止せずに合流していた。合流場所の手前には信号機のない横断歩道があり、ここを通行する自転車が多かったが、約６割が安全確認をせずに横断歩道へと進入した。この場所を通行するクルマ・バイクが少ない（観察１時間で９台）ためと考えられる。安全確認を省略することは、たいへん危険である。「いつもクルマが来ないから大丈夫」と油断せず、道路を横断する際は必ず安全確認をしてほしい。

観察日時／６月２日（火）16：20～17：20
天候／晴れ

●信号機のない横断歩道を通行する自転車の安全確認状況（台）

安全確認した	安全確認していない	合計
67 （36.8％）	115 （63.2％）	182

合流しようとする道路にクルマがいない時は停止線の手前で一時停止しない


「練馬北町陸橋」交差点

安全確認をせずに横断歩道に進入する自転車

スマートフォンに集中し、安全確認せずに横断歩道を渡る歩行者

観察場所③

江東区北砂３丁目

右左折時に歩行者を優先させる車両が多い

ここでは横断中の歩行者と右折車両の衝突事故が発生し、70 代の歩行者が死亡した。事故現場となった「進開橋南詰」交差点の近くには病院や大型ショッピングモールがあり、観察を実施した昼過ぎは歩行者や自転車の通行量が多かった。信号機には右折矢印信号がなく、右折車両は対向車線の車両が途切れるタイミングで右折しなければならない。右左折時は歩行者用信号機も青のため、横断歩道には自転車や歩行者の往来があり、ほとんどのドライバー・ライダーが周囲の状況を確認してから通行していた。観察中、歩行者用信号機が赤に変わった後、周囲に注意を払う様子もなく、横断歩道に進入する歩行者・自転車が散見された。ドライバーは歩行者用信号機が赤になっても、横断してくる歩行者・自転車に注意しなければならない。そして、歩行者もしっかり交通ルールを守った行動をしてもらいたい。

観察日時／６月２日（火）13：00～14：00
天候／晴れ

●右左折する車両の歩行者保護状況（台）

		合計		
歩行者・自転車を優先させた	四輪車	26	28 （82.4％）	34
	二輪車	2		
歩行者・自転車を優先せずに通過した	四輪車	5	6 （17.6％）	
	二輪車	1		

横断歩道に歩行者がいる時は、多くのクルマが歩行者保護を行っていた

歩行者用信号機が青点滅や赤になっても渡る歩行者がいた

平日の昼過ぎだったが、自転車に乗る子どもも散見された

（SJ クイズの解答：Q1 ①、Q2 ③ 、Q3 ③）

KYT 危険予測トレーニング
第 75 回　雨天時のカーブ（二輪車編）

**あなたは雨が降る中、バイクを運転しています。
左カーブにさしかかりました。
安全に走行するためには、どのようなことを予測する必要がありますか？**

交通事故を防止するためには、路上で出会う様々な危険を予測することが大切です。このコーナーでは危険感受性を高めるための題材を提供します。今回は二輪車のライダーに、雨天時にカーブを走行する時の危険について考えてもらうための KYT です。

活用方法

1. 少人数のグループをつくります。
2.「交通場面のイラスト」を見ながら、意見を出し合います。
3. その後、「解答・解説※」を参考にして、どんなことに気をつければ良いか再び話し合ってください。

※「解答・解説」と「交通場面のイラスト（カラー・A4 版）」は下記 SJ ホームページでご覧いただけます。また PDF ファイルもダウンロード（無料）できます。

ホンダ　SJ　検索

【使用上の注意】
●営利目的での利用はおやめください。
●内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください。
●その他、使用に関するご質問はお問い合わせください。

本田技研工業（株）安全運転普及本部
TEL：03（5412）1736　E-mail:sj-mail@spirit.honda.co.jp

© 本田技研工業（株）

SJ クイズ ?
二輪車編

Q1 **2019 年の二輪車（自動二輪・原付）乗車中の交通事故死傷者数を年齢層別にみると、最も多い年齢層は次のうちどれでしょう？**

① 15 ～ 24 歳　② 45 ～ 54 歳　③ 65 歳以上

Q2 **2019 年の二輪車が第 1 当事者※となった交通事故件数を法令違反別にみると、最も多い法令違反は次のうちどれでしょう？**

①操作不適　②脇見　③安全不確認

※第 1 当事者は交通事故の当事者のうち、過失が最も重い者または過失が同程度の場合は被害が最も軽い者。第 2 当事者は過失がより軽いか、過失が同程度の場合は被害がより大きいほうの当事者。

Q3 **2019 年の二輪車乗車中の交通事故死者数 510 人のうち 499 人はヘルメットを着用していましたが、このうち事故時にヘルメットが離脱していた割合は何%でしょう？**

①約 10%　②約 20%　③約 30%

「解答」は P5 下、「解説」は
下記 SJ ホームページでご覧いただけます。
https://www.honda.co.jp/safetyinfo/sj/

三重県「高校生の交通安全教育検討委員会」が協議を終了

三重県では高校の PTA 組織によって、生徒の二輪車利用を禁止する「三ない運動（免許を取らない・バイクを買わない・バイクに乗らない）」が実施されている。1978 年に定めた同県の「高等学校交通安全指導要項」（以下、指導要項）により生徒の二輪車免許取得と二輪車通学については、特別な事情（通学困難等）がある場合にのみ各学校の校長から許可される。こうした中、三重県教育委員会（以下、県教委）は高校生に対する交通安全教育をより実効性のあるものにするため、「高校生の交通安全教育検討委員会」（以下、検討委員会）を 2018 年 9 月に設置した。検討委員会には学識経験者、教育関係者および交通安全に係る団体等から 13 名が委員として参画し、①高校生の自転車の運転に関する交通安全教育、②二輪車の運転免許取得、③卒業後に運転者となることを踏まえた交通安全教育の 3 つを議題に検討。その過程では生徒や保護者を対象にしたアンケートも実施され、二輪車を必要とする高校生の数が推定されるなど、実態を踏まえた議論が展開された。そして、3 月 5 日に開催された第 7 回会議ですべての協議を終了。第 7 回会議では、二輪車の運転免許を取得した生徒に安全運転講習（実技含む）を行う場合、誰がどのように実施するかを協議。これには三重県指定自動車教習所協会が応え、教習所で行う「原付通学安全教育モデル」を提案した。安全運転講習の実施は可能という認識でまとまり、二輪車関係団体も「必要に応じて連携したい」と協力を表明。また、（一社）日本自動車工業会は、二輪車の免許取得をしたすべての生徒に安全教育を届けるよう要請した。後半は「高校生の交通安全教育検討委員会における協議のまとめ」が議題となり、委員長である大阪国際大学教授 山口直範さんが草案を示した。県教委はこれまでの検討を踏まえ、指導要項の改定をめざす考えだ。